

2015
Vol.23

THE BSSC JOURNAL

通巻23号 2015年7月16日発行



びわこ成蹊スポーツ大学新聞 Biwako Seikei Sport College

THE BSSC JOURNAL

びわこ成蹊スポーツ大学の「今」を伝える

©びわこ成蹊スポーツ大学新聞編集部 〒520-0503 大津市北比良1204番地 <http://bsscj.jp/>

高校時代は62キロ級で戦っていたが、現在は69キロ級で競技を行っている。いまの体重は65キロ台。階級が一つ上がったことで「食事の面で体重を増やすのがとても大変です」という。それでも5月31日に関西大学で行われた第31回関西学生選抜選手権の69キロ級では、スナッチ106キロ、ジャーク128キロのトータル234キロで優勝し、その実力を示した。大学初戦で

勝った感想を聞くと、「あまり人数が出ていなかったし、たまたま取れたものと思っていた。でも、応援してくださった方には感謝です」と謙虚に語った。そんな彼は中学までは野球部に所属しており、高校からウエイトリフティングを始めた。身長160センチと小柄な体格ではあるが、秘められたパワーはすごい。高校では「全国選抜大会、インターハイ、国民体育大会の三

冠」という目標を掲げて戦ってきたが、長崎国体2位で惜しくも達成することはできなかった。それでも二冠獲得は堂々たる結果である。「高校から始めた競技でここまで上り詰めたのは、恩師である堀内康晴先生のおかげです」という。その道のりは、決して楽なものではなかった。全国選抜大会の前には、肩

という。その大塚を支えたのが堀内先生である。トレーニングから精神的な面まで多くのアドバイスを受け、優勝することができた。その後もけがと闘い続けながら競技をしている。大学生となり、

勉強と夜まで続く練習との両立も予想以上にきついという。それでも、「全国大会で表彰台に乗ること」と力強い言葉が返ってきた。

常に上を見据えて戦っている大塚の1年次生での目標は「全日本ジュニア選手権(来年3月)での3位以内」。期待の新人の今後に大いに注目したい。



ウエイトリフティング部 期待の2冠ルーキー

おおつか

とも

ウエイトリフティング部の大塚和は、昨年の全国高校選抜大会、インターハイの二冠を達成した期待のルーキーである。
本学にはまだウエイトリフティングの練習施設がないため、母校の滋賀・安曇川高校で週6日、毎日約4時間の練習に励んでいる。

関西学生選抜選手権V

びわこ成蹊スポーツ大学

LINE@

びわこ成蹊スポーツ大学×LINE@
を開設しました!

オープンキャンパスや入試の
最新情報だけでなく、
HOTなニュースをお届けします。
今すぐ「友だち追加」しよう!

友だち追加



世界大会出場者の
壮行会が行われました

7月開催の各世界大会出場者の壮行会が6月3日、クラブハウスで行われた。嘉田由紀子学長をはじめ多くの教職員や学生が参加し、盛大な拍手で大舞台に飛び出す出場者を送り出した。

学生では、森翼(大学院2年)と梅田優子(4年)が世界水泳選手権の女子水球日本代表に選ばれた。世界水泳選手権代表に選ばれるのは、本学始まって以来の快挙。キャプテンとしてチームを引っ張る森は「選ばれたのはチームメイト、コーチなど支えてくれた人たちのおかげ。上位入賞、そしてメダルを目指したい」と語った。ユニバーシアードにも出る梅田は「練習の成果を試合で発揮したい」。吉見怜(3年)はアルティメットの世界U-23選手権のミッドフィールダーとして、望月聡教授はユニバーシアード(韓国・光州)のサッカー日本女子代表監督として世界と戦う。世界一になって以降人気が高まっている女子サッカーだけに注目度は高く、「夢と希望を与えられる試合をしたい」ときっぱり。渡邊泰典助手はユニバーシアード女子水球の日本代表コーチに選ばれ、「チームをサポートしたい、いい結果を残したい」と力強く話した。

京滋大学野球1部の春季リーグ戦は4月1日から5月25日まで行われ、硬式野球部は7勝5敗、勝ち点3で3位となった。昨秋に続く3位だが、今季も京都学園大と佛教大の厚い壁は破れなかった。

第1節の成美大は、1勝1敗からの3回戦で6-1と快勝して勝ち点を奪い、第3節の大谷大は投打がかみ合って連勝した。好調なスタートを切ったが、第4節の京都学園大では2回戦に6-1で勝ってタイとしながら、勝負どころの3回戦で1-8と完敗。第5節の佛教大戦でも終盤に粘り

切れず連敗し、優勝争いから脱落した。本郷監督は「中盤の勝負の流れを引き寄せる力がある。ただ、優勝校との差は紙一重だったことは、選手自身も実感している」と総括した。昨年までは先制されると反撃できなかった京都学園大で、先制され勝ち越されても振り出しに戻した。力をつけた証拠だ。2位の佛教大を含めて、3校は実力的には横並び。選手自身が甘さを痛感したことは収穫だった。一から出直し、チームを締め直す」と同監督は秋のシーズンをにらむ。今回のベンチ入りメンバーは3年次生が中心だった。安定していた投手陣では、

本郷監督が「器用な選手」と評する津田智広(3年)を中継ぎで起用した。先発の山元征也(2年)も力を発揮した。同監督は、「秋は優勝が十分狙える」と言う。夏の鍛錬の成果を、秋の優勝に結び付けてほしい。

秋は優勝！

奮闘及ばず3位

春季リーグ戦

リーグ戦の試合結果

	対戦相手	勝敗	得点
第1節	成美大	1回戦	○ 7-0
		2回戦	● 0-1
		3回戦	○ 6-1
第3節	大谷大	1回戦	○ 7-1
		2回戦	○ 11-1
第4節	京都学園大	1回戦	● 5-7
		2回戦	○ 6-1
		3回戦	● 1-8
第5節	佛教大	1回戦	● 3-6
		2回戦	● 2-8
第6節	花園大	1回戦	○ 3-2
		2回戦	○ 4-2

京滋大学野球1部春季リーグ戦 勝敗表

順位		学園大	佛教大	びわスポ大	成美大	大谷大	花園大	勝	敗	勝点	勝率
1	京都学園大		○○	○●○	○○	○○	○○	10	1	5	0.909
2	佛教大	●●		○○	○○	○●○	○○	8	3	4	0.727
3	びわスポ大	●○●	●●		○●○	○○	○○	7	5	3	0.583
4	成美大	●●	●●	●○●		○●●	○○	4	8	1	0.333
5	大谷大	●●	●○●	●●	●○○		●●	3	9	1	0.250
6	花園大	●●	●●	●●	●●	○○		2	8	1	0.200

第92回 関西学生陸上競技対校選手権大会

男子1部〈総合〉

順位	学校名	総合得点
1位	関西学院大	187点
2位	大阪体育大	110点
3位	京都産業大	84点
4位	大阪教育大	80点
5位	京都大	74.5点
6位	立命館大	71点
7位	関西大	66点
8位	同志社大	57点
9位	近畿大	43点
10位	びわスポ大	33点
11位	天理大	24.5点
12位	大阪大	22点

主な決勝記録

名前(学年)	種目	記録	順位
森 省太(4)	200m	21秒93	7位
菅浪 裕也(2)	10000m競歩	43分07秒84	2位
長澤 匠(2)		44分30秒35	3位
森川 雅己(1)		46分15秒47	7位
岩本 浩和(3)	4×100mリレー	41秒16	8位
吉田 拓也(2)			
萩原 響太(2)			
森 省太(4)	三段跳び	15m17	5位
藤原 僚二(3)	走り幅跳び	7m13	7位
板東 歓揮(3)	棒高跳び	4m80	4位
加川 涼真(3)		4m60	6位
西平 守将(3)	ハンマー投げ	55m26	8位
細谷 海人(2)	円盤投げ	40m53	8位
黒田 貴稔(2)	十種競技	6612点	8位

陸上競技部

陸上競技部が奮闘した。第92回関西学生対校選手権は5月14日から4日間、大阪・ヤンマースタジアム長居で行われた。男子1部は12の大学で争われ、下位2チームは2部に降格する。本学は3日目までにわずか6点しか取れなかったが、最終日に27点を奪って天理大、大阪大を上回り33点の総合10位で1部を守った。

1部守る

ポイントを稼いだのは1万m競歩だった。菅浪裕也(2年)が43分7秒84で2位、長澤匠(2年)が3位に入り、1年次生の森川雅己も7位に食い込んで3人で15点を獲得した。跳躍では藤原僚二(3年)が走り幅跳びで7位、三段跳びで5位と2種目で入賞し、棒高跳びでは板東歓揮(3年)が4位、加川涼真(3年)が6位と入賞した。女子では円盤投げの太田奈穂(3年)が4位に入り、5点を挙げた。このポイントで女子は総合19位。

菅浪 裕也

長澤 匠

▶前期結果(第9節終了時点)

	月日		得点	対戦相手
第1節	4月4日	びわこ成蹊スポーツ大	2 1-1 1-0	1 近畿大
第2節	4月11日	びわこ成蹊スポーツ大	0 0-1 0-1	2 甲南大
第3節	4月19日	びわこ成蹊スポーツ大	2 0-0 2-0	0 京都産業大
第4節	4月25日	びわこ成蹊スポーツ大	2 1-1 1-0	1 関西大
第5節	5月3日	びわこ成蹊スポーツ大	1 1-1 0-3	4 大阪産業大
第6節	5月6日	びわこ成蹊スポーツ大	0 0-1 0-0	1 立命館大
第7節	5月9日	びわこ成蹊スポーツ大	1 0-3 1-1	4 関西学院大
第8節	5月16日	びわこ成蹊スポーツ大	1 1-1 0-2	3 大阪体育大
第9節	6月14日	びわこ成蹊スポーツ大	1 1-0 0-0	0 大阪学院大

2年連続インカレ出場への挑戦

昨年、関西学生リーグ2位、全日本大学選手権(インカレ)3位と旋風を巻き起こしたサッカー部が、今シーズンはリーグ戦前期第9節を終えて4勝5敗の6位と苦戦を強いられている。



序盤は3勝1敗だったが、5月に入って4連敗。望月監督は「実力通りの結果、攻守両面でのハードワーク、粘り強さが足りない」と分析する。昨シーズン躍進の要因は最後まであきらめないプレーとゴールへの姿勢。今シーズンはここまで9試合で10得点に対し、失点は16と踏ん張りきれしていない。

望月監督は「我々はいつ2部に降格してもおかしくない。うちよりもレベルが高いところばかり」と危機感を募らせる一方、「残留という目標は掲げない。やるからには優勝を目指す」と浮上への意気込みを語る。

6月の第9節、大院大との一戦では1-0で勝利をもぎ取り、復調の兆しが見えてきた。リーグ戦は約3カ月の中断期間に入る。本来の粘り強さを取り戻すことが巻き返しの鍵となる。「今取り組んでいることの継続、基本の質のグレードを上げる」と同監督は課題を語った。2年連続のインカレ出場へ、そして全国レベルの強豪になるための挑戦が続く。

▶2015年度 第93回 関西学生サッカーリーグ (前期) 勝敗表

順位		阪南大	びわスポ大	関学大	大体大	桃山大	大院大	京産大	関西大	立命大	大産大	近畿大	甲南大	勝	負	分	得点	失点	得失点差	勝点
2	阪南大				●0-2	○4-0	△3-3	○1-0	○3-2	○5-1	○3-2	○4-0	○5-0	7	1	1	28	10	18	22
6	びわスポ大			●1-4	●1-3		○1-0	○2-0	○2-1	●0-1	●1-4	○2-1	●0-2	4	5	0	10	16	-6	12
1	関学大		○4-1			○3-2	○5-0	○3-0	○3-2	△2-2	○5-0	○2-1	○4-0	8	0	1	31	8	23	25
3	大体大	○2-0	○3-1			△1-1	△3-3		○2-1	○3-1	○5-0	△1-1	○4-0	6	0	3	24	8	16	21
4	桃山大	●0-4		●2-3	△1-1			○3-0	○1-0	○2-1	○4-1	○3-1	△1-1	5	2	2	17	12	5	17
5	大院大	△3-3	●0-1	●0-5	△3-3			○3-0	△2-2		○4-2	○1-0	△1-1	3	2	4	17	17	0	13
9	京産大	●0-1	●0-2	●0-3		●0-3	●0-3			△1-1	△1-1	△0-0	○1-0	1	5	3	3	14	-11	6
7	関西大	●2-3	●1-2	●2-3	●1-2	●0-1	△2-2			○2-1	○2-0		○1-0	3	5	1	13	14	-1	10
8	立命大	●1-5	○1-0	△2-2	●1-3	●1-2		△1-1	●1-2			○4-3	△2-2	2	4	3	14	20	-6	9
12	大産大	●2-3	○4-1	●0-5	●0-5	●1-4	●2-4	△1-1	●0-2			●1-2		1	7	1	11	27	-16	4
11	近畿大	●0-4	●1-2	●1-2	△1-1	●1-3	●0-1	△0-0		●3-4	○2-1			1	6	2	9	18	-9	5
10	甲南大	●0-5	○2-0	●0-4	●0-4	△1-1	△1-1	●0-1	●0-1	△2-2				1	5	3	6	19	-13	6

各クラブ成績ピックアップ!!
Pick Up

春のスポーツシーズンで、各クラブは健闘した。主な成績をピックアップしよう。

柔道部は5月に行われた関西学生女子優勝大会3人制の準決勝で関大に敗れた。惜しくも4連覇は逃したが、3位は立派だった。

昨季の関西学生リーグ1部で2位と躍進した男子フットサル部は、6月28日現在で4連勝、勝ち点12で3位と好調。ウェイトリフティング部の東山健哉(1年)は関西学生選抜選手権85キロ級で2位に入った。本学の学生が中心のCNCウォーターポロクラブびわこは、西日本女子水球大会で2連覇を達成した。

男子バレーボール部は関西大学リーグ2部で5勝2敗の2位となったが、1部との入れ替え戦では残念ながら敗れた。女子サッカー部は関西学生女子リーグ2部2位で入れ替え戦に進んだが、1-1からのPK戦で敗れ惜しくも1部昇格を逃した。

新客員教授のご紹介

2015年度から客員教授に新たに4人が加わった。写真家の今森光彦氏、シンクロナイズドスイミングの五輪メダリストである奥野史子氏と田中ウルヴェ京氏、女子バレーボール五輪金メダリストの荒木田裕子氏。

今森氏は琵琶湖を取り巻く自然環境について、奥野氏と田中氏はオリンピックへの取り組みやスポーツ界の情報について、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致に関わった荒木田氏にはオリンピックやアスリートのキャリア教育などについて、それぞれ特別授業が予定されている。

荒木田裕子氏

田中ウルヴェ京氏

奥野史子氏

今森光彦氏

目指せ

ワールドカップ出場

永井義文の

覚悟

大学院2年の永井義文は、現在フットサルチームのシユライカー大阪で中心選手として活躍し、研究生活とプロ選手という二足のわらじをはいている。オフは年間で5日ほど。「相当な覚悟がいるので後輩たちにはお勧めはしない」と言うほどハードな日々だ。



(シユライカー大阪提供)

練習や試合のない日は一日中キャンパスで研究を行い、練習がある日も練習後に大学に来て、研究をやる。そのテーマは「フットサルの指導が敏捷性能力に及ぼす効果」。今後は、「スポーツ健康学・医科学を学んで科学的根拠に基づいた、安全な子供の保健体育指導を研究したい」と言う。文武両道を掲げるびわこ成蹊スポーツ大学にとっては、まさにお手本のような学生だ。

フットサルに出会ったのは大学2年のころ。きっかけは関西学生サッカーリーグの試合を偶然見に来ていたフットサル関係者の一言だった。「君はフットサルで日本代表になれるかもしれない」という言葉が忘れられず、大学3年のときにサッカー部を休部し、シユライカー大阪のサテライト(2軍)に入って本格的にフットサルを始めた。そこで力をつけ、大学4年の2009年にシユライカー大阪のプロ選手となった。2014年はイタリアのセリエA2のイソラでプレーし、今年からシユライカー大阪に戻った。自らの長所を「ゴール前での嗅覚だ」と言う。今季(6月28日現在)は11試合で9得点を挙げて、得点ランキング4位。フリーグでの通算得点は46得点だ。

そんな永井の目標は来年のフットサルW杯(ワールドカップ)に出場すること。2013年からは日本代表として国際大会に出場しており、日々の努力を怠らない男にとっては不可能なことではないだろう。

フレッシュマン キャンプ



新入生350人を迎えて、三大実習の一つ「フレッシュマンキャンプ」が4月5日から11日まで、キャンプA・Bの各9クラスずつに分かれて3泊4日の日程で行われた。

キャンプAでは留学生、編入生らの特別班も編成された。

今年度はキャンプAが荒れた天候の中で行われ、同Bも天候の急変のためにスケジュールの変更を余儀なくされたが、仲間づくりの野外ゲームであるASE活動や夕食作り、武奈ヶ岳への登山など多くのプログラムが行われた。このフレッシュマンキャンプを通して、仲間と協力することや自然との関わりを深めることができ、1年次生にとっては有意義な、そして忘れられない4日間となった。

びわこ成蹊スポーツ大学

〒520-0503 大津市北比良1204番地
【代表】TEL:077-596-8410 FAX:077-596-8419 E-mail:jim@bss.ac.jp



JR比良駅から線路沿いに徒歩約15分。JR京都駅よりJR比良駅まで約40分。